



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

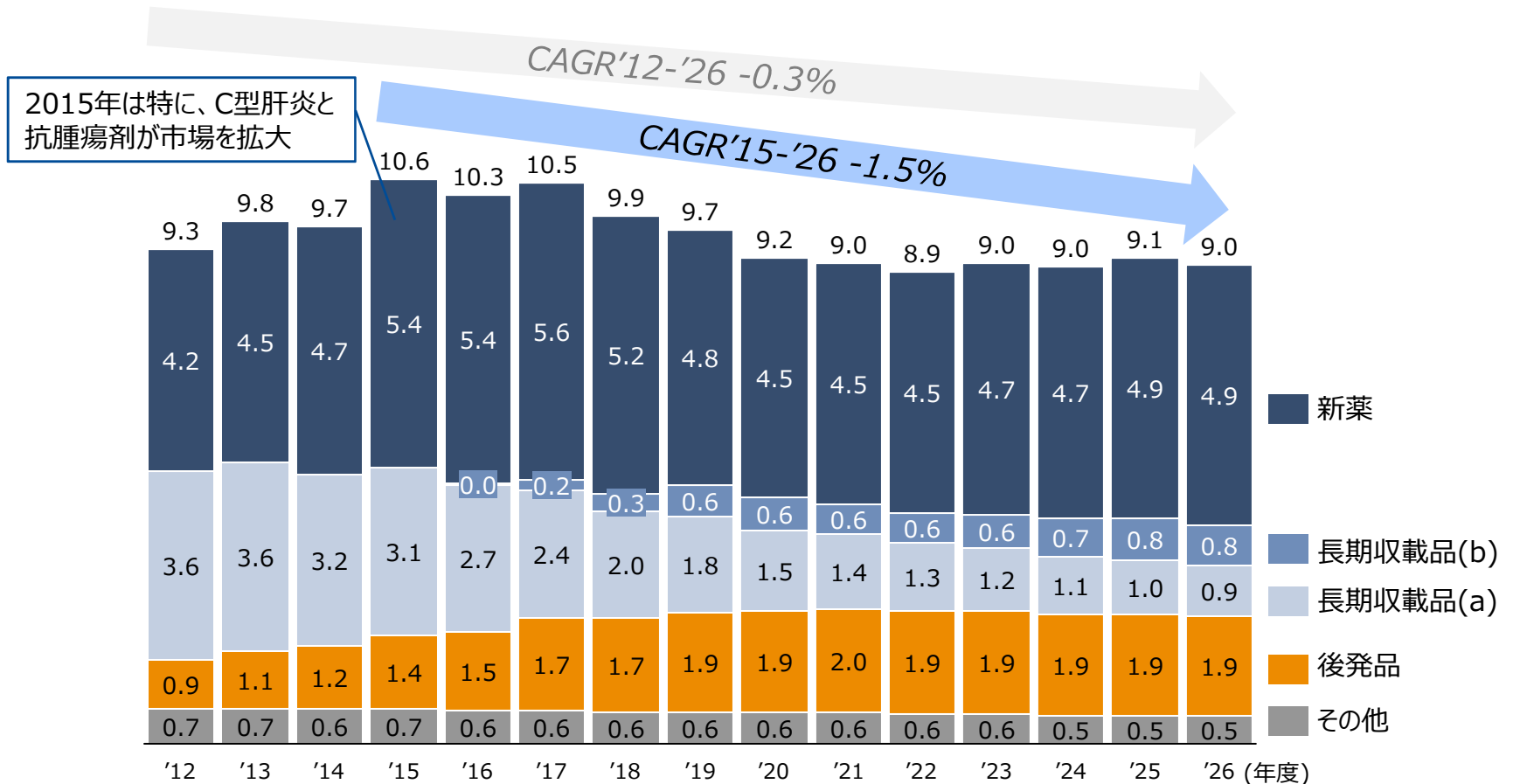
薬価制度の抜本改革に対する EFPIA Japanの見解

2017年5月17日

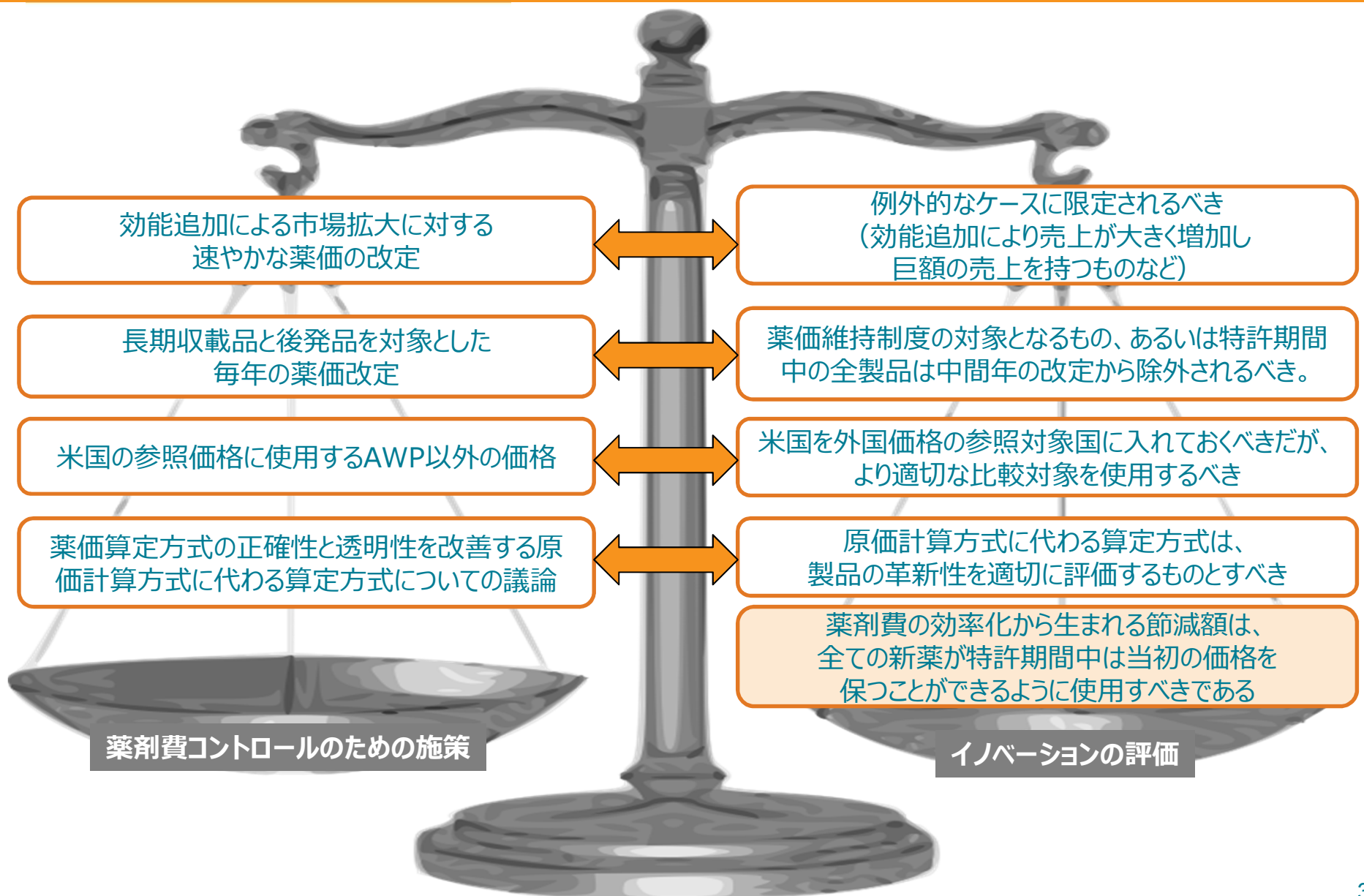
欧州製薬団体連合会
会長 オーレ・ムルスコウ・ベック

薬剤費支出は十分に管理されているおり、より効率化がなされた場合、将来の医薬品市場はCAGR-1.5%で推移が見込まれる*

市場の成長 (市場全体、兆円)



薬価制度改革：イノベーションの評価と 薬剤費コントロールのバランスを取る



薬剤費の効率化から生まれる節減額は、全ての新薬を薬価維持制度の対象として、当初の価格レベルを特許期間中は維持することに充当すべきである。
少なくとも現行の新薬創出加算制度をそのまま継続し加算対象となる製品範囲を維持すべきである。

薬剤費支出は一部の例外的な事例を除き十分に管理されている。EFPIAは将来的にこれらの例外的事例を管理するための正式なメカニズムの確立を支持する。

売上の大きい製品で効能追加に伴い市場が大きく拡大する例外的事例に対してという条件で、EFPIAは効能追加による市場拡大後速やかに薬価を改定するという提案を支持する。

薬価乖離率の大きい長期収載品と後発医薬品のみを調整対象とすることを条件として、EFPIAは年1回の価格改定を支持する。

EFPIAは米国を外国価格の参照対象国に入れておくべきと考える。ただし、米国の参照価格として平均卸価格 (AWP) 以外を使用することは支持する。

EFPIAは原価計算方式の薬価算定に対する代替案について話し合いたい。